

# 平成30年度 第1回地域家庭教育推進会津ブロック会議

1 開催日 平成30年6月7日（木）14:30～17:00

2 会場 ルネッサンス中の島（会津若松市上町）

3 出席者（敬称略）

- 鶴見 常夫 会津坂下町坂下コミュニティセンター長
- 成澤 勝蔵 会津若松市父母と教師の会連合会会長
- 島田 勉 北会津地区PTA連絡協議会会長
- 小林 裕子 耶麻地区小中学校PTA連絡協議会会長
- 兼子 栄一 北会津小中学校長連絡協議会会長
- 石原 暁子 学校保健会北会津支部養護教諭部会長
- 三浦 一洋 株式会社リオン・ドールコーポレーション人材教育部社会貢献室マネージャー
- 大越ひかり 会津若松市教育委員会（家庭教育担当者）
- 田辺弥恵子 会津坂下町教育委員会（家庭教育担当者）
- 吉村まゆみ 会津保健福祉事務所専門保健技師
- 山内 正吉 会津地区社会教育指導員連絡協議会会長
- 増子 恵二 福島県家庭教育インストラクター 会津さざなみの会会長
- 幸田久美子 喜多方市家庭教育支援チーム“もも”代表
- 酒井美代子 北塩原村学校支援地域本部コーディネーター
- 紫藤真理子 西会津町家庭教育コーディネーター
- 星 佳子 西会津町家庭教育支援員
- 大竹 民江 会津若松警察署生活安全課 専門少年警察補導員
- ※（事務局） 会津教育事務所 5名



4 開催趣旨

この会議は、会津地域の家庭教育の現状と課題を把握し、課題解決に向けた実践活動を推進するため、各郡市PTA連合会・学校代表・企業代表・地域代表による協議を行うものです。

平成29年度までは、「家庭における食育の推進」をテーマに協議して参りました。今年度からは、そのフォローアップを行うとともに、「家庭におけるメディア機器等への関わり方～SNSとのつきあい方について～」をテーマに会議を開催しています。

5 内 容

(1) これまでの取組、成果等について  
「食育を通じた心豊かでたくましい人づくり」  
リーフレットの周知と活用

平成29年度には、「家庭で、学校で、地域で、一緒に楽しくコミュニケーション」とサブタイトルを掲げ、右記のリーフレットにまとめました。

このホームページからダウンロードできるので、周知と活用を呼びかけていきます。これまでに取組んできた「食育」は、「家族の共通体験」につながっているので、今後もフォローアップをしていきます。



## (2) 協議

### ○問題提起 ～平成30年度の取組について～

子ども達を取り巻くメディア環境の急速な変化、とりわけスマートフォンを所持する児童生徒が増加しています。「平成29年度青少年のインターネット利用環境実態調査」によれば、中学生の84.5%、高校生の91.1%が、コミュニケーションツールとしてスマートフォンを利用しています。そこで、メディアコントロールに関する「〇〇宣言」「〇〇チェックシート」等の啓発資料がたくさん作られています。

しかし、同じ調査で「スマートフォンにおける保護者の取組」をみると、小中高平均で、子どものネット状況を把握している保護者は36.1%、フィルタリングを使っている保護者は44.0%と低水準です。このような現状を鑑みて、会津ブロック会議では、子ども達の安心・安全・命を守るために、どのような取組をしていけるのか協議していきます。

### ○SNS等に起因する事犯について【概要】

会津若松警察署生活安全課専門少年警察補導員 大竹 民江 氏

警察庁のHP資料「SNSに起因する事犯について」をみると、コミュニティサイトに起因した犯罪被害に遭う少年達が、軒並み年々増加しているという状況です。少年非行は減っていますが、こういった被害にあっている少年はどんどん増加しているということ意識していただきたいと思います。

福島県にもある「青少年健全育成条例」を皆さんお聞きになったことがあると思いますが、この条例で被害に遭っている青少年は38.7%です。一昨年からみて増えている年齢は13～15歳で、被害が低年齢化していることが分かります。学識別にみると、中高生の占める割合が9割弱です。この課題に取り組み始めた頃は、高校生に情報モラル教室をと言われていましたが、最近は中学生・・・、中学生ではもう遅いのではないかと感じています。

これも警察庁のHPに載っていますが、被害に遭った青少年の8割強が、スマートフォン等の契約当初からフィルタリングを設定していません。フィルタリングは、保護者としての絶対的条件だと思います。

全国的な数値をみても、被害が減らないといった状況は、今後、我々大人に課せられた課題だと思います。会津地区から被害が少しでも減るように、出ないようにしていくために考えていきましょう。

### 【グループ協議】



#### 1 グループ【学校・保護者】

スマホを中学校の入学と同時に買い与えてもらう子が増えており、SNS等で情報を共有するのも当たり前。

スマホに関しての宣言等、色々出ているが、それが実行できているかという疑問がある。情報を届けたい所にどう届けるか、早い段階でのルール作りが必要という共通認識を持った。

## 2 グループ【行 政】

リーフレットや宣言等をどう活用していくかが課題。  
家庭等のルールや作りも、使い方次第では。  
インターネットテレビ等を親に視聴してもらい、体験的に学ばせる事で、関心を向けることが必要なのでは。  
講演会等に関心の薄い親には、関心のある親から親同士のつながりを使って情報発信してはどうか。



## 3 グループ【家庭教育支援】

子どもは、ネット上で知り合った相手に疑いを持たないため事件に巻き込まれるケースが多い。  
川で溺れないように禁止の立て札を立てるのではなく、正しい川の泳ぎ方を教えるように、正しいスマホの使い方を教えていく必要がある。  
人権意識「自分も大切。他の人も大切」を高める事で、長い目で見たら、被害に巻き込まれることを未然に防ぐことができるのでは。

## 【全体会】



### 《全体的話し合い》

- SNS等の利用について早期にルールを身につけさせる事が必要ではないか。  
⇒既存のチェックリストを見直して、活用を図ってはどうか。取組結果から、各地域の実態が見えてくるのではないか。
- 関心はあっても講演会等に参加することができない親や、関心の薄い親への関わりを持つための具体的な手段について取り組む必要がある。  
⇒講演等に足を運ぶ機会が少ない保護者への対応として、家庭教育担当者の「企業訪問」を予定している等。

## 【委員長まとめ】 ○成果 ●課題



### 〈成 果〉

- ブロック会議のメンバーが16名変わったが、昨年度までの取組経過や成果等の報告により、共通理解のもと協議を行うことができた。
- 「SNSとのつきあい方について」をテーマに、問題提起とグループ協議を行い、早期にルールを身につけさせることの大切さ、講演会等に参加することができない親への関わりを持つための具体的な手段、既存リーフレットの改善や活用等について、多様なアイデア、意見が出された。
- 「食育推進」のフォローアップとして、「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業と連携を図った「食ふれあい十七字」の継続と、「食を通した心豊かでたくましい人づくり」リーフレットの周知と活用を図っていく。

### 〈課 題〉

- 学校、公民館、企業との連携に向けたアイデア等が出されたが、その実現に向けて、情報を収集し、連絡調整を図りながら繋ぐことが課題となる。